



教育目標 誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり

当事者として自分ができること

校長 白田 敏幸

私事になるが、子供が2人いる。どちらも成人しており、娘は教員、息子は企業に就職し、なんとか自立して生活している。

この子供たちが小学生の頃、娘は4年生の時に「いじめ」にあい、息子は3年生の時に登校を渋った。当時は、親としてどう対処したらいいのか分からず、苦悩の日々を送っていた。

しかし、今となっては、この体験をさせてくれた子供たちに心から感謝している。それは、教育に携わっているものとして、「いじめ」や「不登校」で悩んでいる「親」の気持ちを直に体験できたからである。担任をしていた時代、いじめや不登校に悩む多くの子供や親御さんと接してきた。その度に、「担任」としてだけでなく、「同じ経験をした親」として共に解決策について話し合うことで、学校と家庭が同じ歩調で対応することができた。ほとんどのケースで大きな問題に発展せず、よい方向に向かうことができた。

今、自分の体験を振り返った時に大きな反省点もある。それは、自分の子供の「いじめ」「不登校」であるのに、「誰かのせい」にしようとしたことだ。教員という立場でありながらも、「学校」や「担任」「子供の同級生」のせいにしてしようとしていた。我が子がしていることには全く目を向けず、いじめている子供だけでなくその親までも敵視。そして、学校に行けないのは、学校に責任があるのではないかと。当然、理由は一つや二つではなく、様々な要因が重なり合っているということを心のどこかで気づきながらも。

息子の登校渋りに悩んでいた時、共に働いていた養護教諭から、「カウンセリングを受けてみないか。」と誘われた。その養護教諭はカウンセリングの資格をもっていたのである。結果的には、私自身が、「姉と弟を比較していること」それが原因の一つとなって「子供の心のエネルギーがなくなっていること」の2つの指摘を受けた。思い返してみれば、姉弟それぞれ違う子供なのに、様々な場面で比較し、「お前は何でできないんだ。」と強い言葉を言ってしまったり、「なんでお前は、そうひねくれているんだ!」などと、子供を傷つける言葉を言ったりしていた。最もひどい言葉だと猛省しているのが、「こっちに来ないで。パパとママは忙しいから、ゲームやってなさい。そのためにゲームを買ってあげているんでしょ。」何とも悪魔のような言葉である。

その日から自分自身の行動を見直し、①息子に今まで以上に愛情を注ぐこと、②自分の気持ち(感情)より息子の気持ちを大切に考えること、③毎日20:00~21:00は息子と共に過ごすこと、④寝るときには、必ず読み聞かせをすることを心に誓った。

そんなことを半年程度続けていると、学校や担任の支援もあり、学校に行けるようになった。

今、いじめや不登校が、教育界だけではなく、大きな社会問題になっている。不登校に至っては、35万人に達しようとしている。ということは、35万人の子供たちが困っており、35万の親御さんが苦しい思いをしていて、さらには、担任や学校が悩んでいるということである。これらの問題を解決する特効薬はない。あるとすれば、それぞれが、それぞれの立場で、その子供のために、「自分は何ができるのか」をその子供に関わる当事者として真剣に考え行動することだと思っている。その時に、私がした失敗のように、その原因をつくった(きっかけをつくった)犯人探しをして、誰かを悪者にしてはいけない。その子供に関わる人たちが、目指すところを共有(話し合って確認)し、失敗を恐れず、何をすればいいのかあれこれ悩まず、今できることをやっていくしかないだろう。もし、失敗したりその子供に合わないと感じたりしときにはやり直せばいい(違う方法をまた考える)だけのことである。

本校においても、様々な課題がある。家庭のせいにせず、地域のせいにせず、誰かのせいにせず、「西部小学校として何ができるか」を考え、日々実践しているところである。

北谷地小学校との交流会

11月29日(金)に、第2回目の交流会を実施しました。今回は、1・2・5・6年生が谷地西部小学校、3・4年生が北谷地小学校を会場としました。各担当が事前に打ち合わせを行い、子供たち同士が交流できる学習内容を考えました。仲間づくりや体育、英語等、楽しく学び合うことができました。また、いくつかの学年で、学習したことの成果を発表する時間も取ったようです。谷地西部小学校では、2年生が国語の時間に学習した「お手紙」の音読劇を披露しました。緊張していたようですが、とても上手に発表することができました。



進化じゃんけん



2年生 お手紙の音読劇



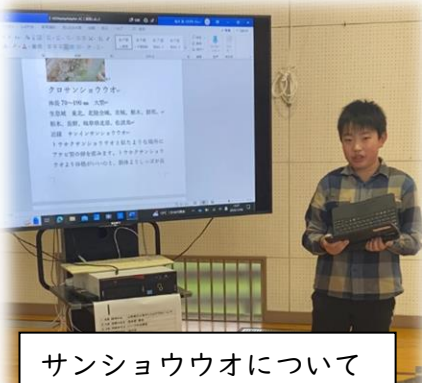
北谷地小 総合の発表

はかせちゃんタイム発表会 ～個人総合で、継続して探究してきました～

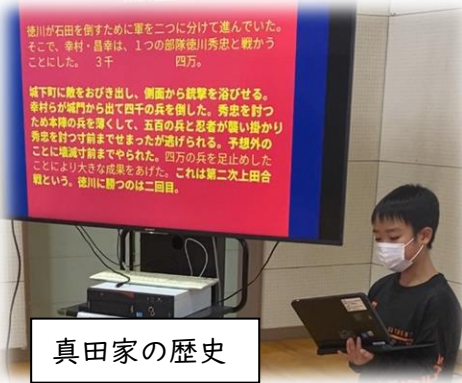
12月3日(火)、自分で課題を設定して、その課題解決に取り組む「はかせちゃんタイム(個人総合)」の発表会を行いました。

6月にスタートしたはかせちゃんタイム。長い時間をかけて調べ、まとめ上げました。今年で3年目になりますが、一人一人が興味のあることを追求することのすばらしさを実感しているところです。

保護者の方々も参観に来てくださったことで、発表する子供たちも張りきっていました。



サンショウウオについて



真田家の歴史



宝の石(宝石)について



紙粘土で作った磁石



割りばしで作った家



「ネイル」の体験もしました

土砂災害 出前授業

本地区は、土砂災害時の避難区域に指定されています。今年9月、実際に避難指示が出されました。怖い思いをした子供もいたようです。そのような実態もあり、毎年土砂災害を想定した避難訓練を実施しています。今年度は、県土整備部砂防・災害対策課をお招きして、出前授業を実施しました。

はじめに、災害の怖さについての講話や、実際に災害が起きている動画を見せさせていただきました。その後、模型を使って、災害が起こる原因やそれらを防ぐための対策について、3つのブースに分かれて説明をしていただきました。



ハンカチがきれいに染め上がりました ～紅花染め～

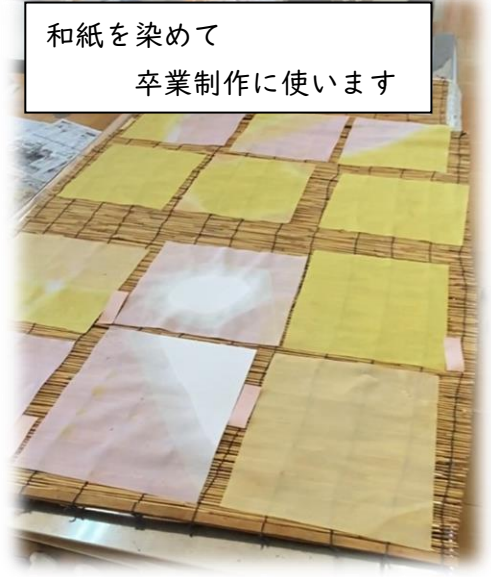
11月1日（金）にべに花染めを行いました。6年生は、染めたハンカチを胸に飾り、卒業式に参加します。また、染めた和紙は、卒業制作として活用します。

5年生は黄染めです。



6年生は紅染めです。

和紙を染めて
卒業制作に使います





トライアングルコーナー

第1学年 学年行事 ～防災センター見学・芋煮会・ドッジボール大会～

今年度、1学年の学年委員長を務めています、齋藤耕宏です。よろしくお願いいたします。

つい半年前までは、保育園に通っていた子供たちですが、毎日の学校生活において、先生方がしっかり一人一人と向き合って指導してくださっているおかげで、今ではすっかり小学生らしくなってきたように感じます。日頃からの子供たちへのご指導、本当にありがとうございます。

1学年の学年行事として、山形市の防災センターに、親子・兄弟も含め、総勢15名で行ってきました。センターでは、地震体験、消火器を使った消火体験、火災時の避難体験など、普段の生活の中ではできないような体験をさせていただきました。親子で防災について考える時間を共有できたことは、とても貴重な体験となりました。昼食は、高嶋公民館で、全員で協力して芋煮を作りました。一つの鍋を使って調理して食べ、おいしさを共感し合えたことも貴重な経験になったと思います。最後には、大人チーム対子供チームでドッジボール大会や紙飛行機飛ばし大会も行い、とても盛り上がりました。今回の活動を通して一番心に残ったのは、1年生がどんなことにも興味津々で、積極的に質問したりチャレンジしたりしようとする姿です。その気持ちを忘れずに、これからも多くの学びを続けていってほしいと思いました。そして、親として、子供たちの一人一人の「自信」を育てていきたいと改めて感じました。

今後とも、先生方、保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。(1学年委員長 齋藤 耕宏)



イカ
知らない人に
ついていかない